令和３年度学校評価アンケート結果

福島県立会津第二高等学校

◎評価段階　4:そう思う、3:まあまあそう思う、2:あまりそう思わない、1:そう思わない

No.	評価項目	令和３年度の評価平均			令和２年度の評価平均			昨年度との比較 R03年度－R02年度			R03年度の教員とのギャップ 生徒･保護者－教員	
		生徒	保護者	教員	生徒	保護者	教員	生徒	保護者	教員	生徒	保護者
	回答率%	100.0	95.2	100	89.7	96.6	100					
1	分かりやすい授業	3.3	3.3	3.8	3.3	3.4	3.7	0	-0.1	0.1	-0.5	-0.5
2	学習事項定着の指導	3.5	3.4	3.7	3.3	3.4	3.8	0.2	0	-0.1	-0.2	-0.3
3	進路達成のための支援（添削・面接・小論文指導）	3.6	3.5	3.4	3.3	3.5	3.6	0.3	0	-0.2	0.2	0.1
4	行事や部活を通しての円滑な人間関係の育成	3.7	3.4	3.7	3.4	3.6	3.6	0.3	-0.2	0.1	0	-0.3
5	学習や生活上の悩み・相談への対応	3.4	3.5	3.6	3.3	3.6	3.6	0.1	-0.1	0	-0.2	-0.1
6	進路意識の高揚	3.4	3.3	3.6	3.3	3.5	3.2	0.1	-0.2	0.4	-0.2	-0.3
7	進路情報の提供	3.3	3.6	3.3	3.2	3.5	3.2	0.1	0.1	0.1	0	0.3
8	進路相談の充実	3.2	3.4	3.6	3.2	3.4	3.7	0	0	-0.1	-0.4	-0.2
9	規則的生活習慣の確立	3.5	3.7	3.1	3.3	3.6	3.6	0.2	0.1	-0.5	0.4	0.6
10	自己理解・自己実現の高揚（生活体験発表）	3.3	3.6	3.6	3.3	3.6	3.7	0	0	-0.1	-0.3	0
11	各種安全教育の効果	3.6	3.4	3.6	3.5	3.7	3.6	0.1	-0.3	0	0	-0.2
12	スクールカウンセラーの活用	3.1	3.1	3.3	3.2	3.6	3.8	-0.1	-0.5	-0.5	-0.2	-0.2
13	心と体の健康増進対策	3.3	3.0	3.6	3.2	3.5	3.6	0.1	-0.5	0	-0.3	-0.6
14	ボランティア、地域貢献の効果	3.7	3.8	3.4	3.5	3.7	3.6	0.2	0.1	-0.2	0.3	0.4
15	給食指導・給食内容	3.9	3.7	3.4	3.5	3.6	3.8	0.4	0.1	-0.4	0.5	0.3
16	学校の情報発信	2.9	3.3	3.6	3.3	3.4	3.7	-0.4	-0.1	-0.1	-0.7	-0.3
	平均	3.4	3.4	3.5	3.3	3.5	3.6	0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1

●そう思う理由・要望・改善点など(記述があった項目)

No.	評価項目	生徒からのコメント	保護者からのコメント
1	分かりやすい授業		
2	学習事項定着の指導		
3	進路達成のための支援（添削・面接・小論文指導）		
4	行事や部活を通しての円滑な人間関係の育成		
5	学習や生活上の悩み・相談への対応		
6	進路意識の高揚		
7	進路意識の高揚		
9	規則的生活習慣の確立		
10	自己理解・自己実現の高揚（生活体験発表）		
11	各種安全教育の効果		
12	スクールカウンセラーの活用		
14	ボランティア、地域貢献の効果		
15	給食指導・給食内容		
17	その他、学校の取組に対するご意見ご要望等があればご記入ください。	・できれば部活動の時間を長くしてほしい。 ・化学のプリントの答えがほしい。 ・昇降口に傘立てがほしい。 ・授業によってわかりやすさが違う。 ・勉強の基礎がなってなかった。 ・給食がうますぎる。	・先生方に恵まれて何とか卒業まで頑張ろうとしています。

●アンケート結果を比較しての分析・反省

○本調査から読み取れる結果としては以下に大別できると考える。授業について本校の生徒の置かれる状況は、複雑な家庭環境と背景を有する生徒が多く、学習に取り組む姿勢や理解に対しての差違が大きく、保護者のニーズも多様であること、また、それに応ずる者として本校の教育方針である「個」に応じた指導が重視されること。また教員の側も、このことに留意して授業の展開と指導に当たるべきであるとの視座が得られた。そして学校側からの学習活動や校内行事などの様子などは、機関誌「AURORA」等やホームページでの発信がなされているが、保護者等への更なる周知の必要性が本調査から得られた。次年度以降についても生徒・保護者・学校・地域社会が好循環に機能するために、協働的・相補的な関係性の促進等が必要であると感じられる。

○授業に関する項目において、やはり生徒・保護者と教員間で差異がある。教員側はわかりやすい授業を心がけ、工夫していると自負しているが、生徒の実際の能力と開きがあると考えられる。同類の結果が、№16「学校の情報提供」に関する項目で見られる。このこともやはり、提供する側は尽力しているが、受け取る側にその熱量が伝わっていないと思われる。鶴ヶ城でのボランティア活動は、三者とも有益であると捉えているため、継続すべきである。